（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年３月 31 日

県立秦野高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 14 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①ICT 利活用授業研究推進校として、ICT を効果的に利活用しながら生徒が自ら課題を発見し、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開することで、一人ひとりの一層の学力向上を図るとともに、地域をリードする学校として研究推進体制の整備化と研究の深化との成果を地域に普及していく。 ②新しい学習指導要領の向け、スタートカリキュラムを見直し定着させる。 ③特別活動においても、生徒の主体的・対話的で深い学びを追求させる。	①ICT 利活用授業研究推進校としての成果を活用し、STEAM 教育研究推進校としての体制の整備と教員間の情報共有に努める。 ②新学習指導要領の意義やねらいを職員間で共有し、スクール・ポリシーで掲げた目標と課題を検証する。 ③特別活動を通して、主体的・対話的で深い学びに結びつく思考力と判断力・表現力等を育成する。	①STEAM 教育研究推進校として、変化の激しい社会を生き抜く資質・能力を育成するための具体的な方向性について協議し、本校の取り組もうとする内容を生徒・保護者に説明し、地域にも発信する。 ①生徒の基礎的な知識・技能の習得のための指導を継続的に実践しつつ、協働学習の機会を積極的に設け、思考力・判断力・表現力等を涵養する。 ②新学習指導要領における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための組織的な授業研究・授業改善に取り組む。 ③委員会活動や学校行事を通して生徒の学習活動の成果を反映させた取組を行う。	①ICT 利活用授業研究推進校としての研究成果を生かし、STEAM 教育研究推進校としての具体的な方向性を検討することができたか。 ①「神奈川県立高等学校生徒学力調査」結果や「生徒による授業評価」結果などにおいて、昨年度の課題事項についての改善が見られたか。 ②新カリキュラムの科目を中心に、学校全体で組織的な授業改善を図ることができたか。 ③行事アンケート等の回答結果から、特別活動において生徒が達成感・創造性や学びの深まりを実感していることを把握することができたか。	①第１回生徒による授業評価の結果をもとに各教科で課題・改善案を検討し、組織的な授業改善に取り組んだ。 ②新学習指導要領がスタートし、校内で意義やねらいの共有を図るディスカッションを行った。各職員が意識を高めるよい機会となった。 ③コロナ禍においても、有効な感染対策を実施しながら、生徒が主体的に活動できるよう指導した。	①「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践の取組が、生徒たちにどのように受け止められているか分析し、更なる授業改善の取組につなげていく。11 月の授業研究会では STEAM 教育研究推進校指定初年度として職員間の共通認識の醸成を図った。今後、生徒の主体性と探究心を育むための授業改善に努めていく。 ②新学習指導要領における「指導と評価の一体化の視点からの授業づくり」について職員全体で同じベクトルを持てるよう校内での議論を活発に行っていく。 ③徐々に通常の形に戻しながら生徒が達成感を感じられるような特別活動が行えるよう、取り組んでいく。	①「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びを想定しているのかを生徒に具体的に示すとともに、指導と評価の一体化等を通じて、生徒の探究心やもっと学びたいと思うような指導方法をより一層工夫していってもらいたい。STEAM 教育研究推進校としての初年度であったが、生徒が将来どのような社会に出るのかを教員側も大局的な視点に立って教育活動を実践してもらいたい。 ②引き続き新教育課程においても組織的な授業改善を進め、生徒の探究心や主体性を伸ばしてもらいたい。 ③特別活動においても達成感が感じられるように、生徒の成長に寄り添い、支援してもらいたい。	①STEAM 教育研究推進校の初年度の方向性として、総合的な探究の時間を軸としながら、生徒の主体性・探究心を伸ばす授業実践を行ってきた。今年度入学生からの１人１台端末の効果的な活用も含めて、一層組織的な授業改善の取組を進めていくこととする。 ②従来の知識詰め込み型の学習だけでなく、生徒が主体的に調べ、まとめ、発表するような学習等も組織的に研究し、学校教育目標やスクール・ポリシーで示した資質・能力が育成できるよう組織的な研究を進めていく。 ③コロナ禍から徐々に従来の形態が戻りつつあるが、この数年間で行事を中止・縮小してきた影響は大きく、行事等が盛り上がりに欠ける場面も少なくない。体育祭・文化祭を毎年両方実施に変更する来年度から生徒のチャレンジを後押しし、達成感や成長につながるような丁寧な指導を重ねていく。	①総合的な探究の時間を所掌するワーキンググループを中心に、本校の学校教育目標やスクール・ポリシーで掲げた育てたい生徒像や育成したい資質・能力を念頭に置いた、教科横断的な取組の具体的な方向性を組織的に議論し、研究を深めていく。 ②新たな教育課程も２年目を迎えるにあたり、１年目の達成状況を振り返り、生徒に対する評価や生徒自身の自己評価が次の学びに向かう動機付けとなるとともに、評価の結果から教員自身が指導の改善につなげていけるよう一層工夫していく。 ③来年度より体育祭・文化祭が毎年実施になることで、生徒の多くが活躍する場面が増えることを期待しつつ、リーダーシップを発揮できるよう教員側が手を差し伸べすぎない工夫や、失敗を恐れずチャレンジすることを許容し後押しするような雰囲気づくりを学校全体で醸成していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①安心・安全な高校生活のための規範意識の向上と他者理解の感性を育成する指導法を確立させる。 ②知・徳・体を兼ね備えた人材の育成を目指し、創造力・バイタリティを身につける指導法を確立させる。 ③スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）等と連携して課題のある生徒に対して情報共有を図るとともに、適切に対応する。	①安全かつ安心な環境を確保し、学校生活の中で規範意識の醸成と他者を思いやる力の育成に取り組む。 ②豊かな心と健やかな体を身につけ、「いのち」を大切にする心を育み、将来に生かせる独創的な創造性・積極的な行動力を養う。 ③一人ひとりのニーズに応え、共に成長することをめざし、不安やストレスを抱える生徒への支援体制や情報共有のしくみを確立させる。	①コロナ禍における基本的な感染防止対策を徹底し、定期的に登下校指導、服装指導、集会を実施することで、生徒一人ひとりのモラルアップを目指す。 ②部活動等を通して、主体的に行動できる力と豊かな感性を育て、他者との協調性や地域社会に貢献していく資質や態度を育む。 ③支援を必要とする生徒への迅速な対応のため、スクールカウンセラーや情報共有会議・ケース会議を有効に活用し外部機関とも連携を図る。	①生徒の日常生活の観察や意識調査の結果から、規範意識や他者への思いやり等のモラルアップの状況を捉えることができたか。 ②部活動等の実施に係るアンケート結果のうち、自己肯定感や達成感の項目において、プラス評価となったか。 ③支援が必要な生徒の情報を収集・共有し、迅速かつ適切な対応ができたか。	①登下校指導や服装身だしなみ指導等は対面による集会の実施が困難であり、学年・担任により日々粘り強く指導した。また、重点的に今年度は駐輪指導を行った。 ②感染防止の観点から新入生の部活動見学、体験入部については ICT を活用しながら行った。新入生の部活動加入率は 85%であった。 ③支援が必要な生徒の情報共有と対応について、月１回の情報共有会議を軸として組織的に円滑に進められた。	①登下校時のマナーに関する近隣からのご意見、ご指摘などが昨年と同様に多く寄せられた。コロナ禍の状況で指導方法を検討しつつ、生徒へ啓発指導を根気強く続けていく。 ②部活動に関するアンケート形式の意識調査や安全対策を実施して、結果を分析・検証し今後の部活動のさらなる活性化に活かしていく。 ③各教育相談組織との連携と情報共有が組織化されてきた。今後、生徒の多様化する支援策を、きめ細かく支援できるような体制づくりを検討する。	①登下校時のマナーについて、近隣住民からの指摘は地域全体としての課題でもある。生徒には自身の交通安全だけでなく、周囲の社会全体の安心をともに担うという視点での指導をお願いしたい。 ②耐震化工事でグラウンドが狭いことや、仮設校舎による不便さの中でも工夫して部活動を進めている。今後、コロナ禍で中断した活動が再開したときも盛り上がりを取り戻していってもらいたい。 ③支援を必要とする生徒をそのまま受け入れるインクルーシブな視点で、学校づくりを進めてもらいたい。	①規範意識、他者の気持ちや立場に立って自らの行動を律する教育等、今後も粘り強く進めていく。駐輪指導や交通安全指導が実を結び、交通事故件数も減少傾向にある。 ②部活動の新入生入部率は 85%あり、多くの生徒が「文武両道」を目指して学校生活を頑張っている。昨年の 94.7%よりはやや低下した。活動を通して、主体的に行動できる力や豊かな感性を伸ばし、自己肯定感や達成感が得られるよう学校全体で部活動の活性化の取組を引き続き進めていく。 ③今年度は夏季休業前後に教育相談週間を設け、担任との二者面談を充実させた。来年度からSC・SSWの来校頻度が増えることも活用し、支援体制の一層の充実に努めていく。	①ＰＴＡ活動とも連携し、教員・保護者が協力して生徒にとって有効な交通安全指導を充実させたい。コロナ禍で十分行えなかった通学路指導等も工夫しながら実施していく。 ②新入生の入部率を高めるため情報発信に努めるとともに、４月の「部活動体験週間」を充実させる。表彰式においても頑張った生徒を学校全体で褒めるような機会を大切にし、努力を評価し合う学校づくりに努める。 ③SC や SSW とも連携し、学年会や情報共有検討会議を中心とした学校全体による生徒支援体制の取組を引き続き進めていく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 14 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①情報化・グローバル化に伴う社会や産業の構造変化と予測困難な時代に主体的に向き合って問題を解決できるキャリア教育を推進する。 ②進学校としての教育活動を進め、生徒がより高い目標を実現できるような体制を確立する。	①生徒が主体的に考え行動し、将来に向けて必要となる資質・能力を身につけられるような環境を整えていく。 ①グローバル社会で活躍する人材育成のため、言語・習慣などの異なる人々との交流の機会を設ける。 ②将来に向けて具体的な目標を考えさせ、高い目標を掲げた上で進路実現を目指すことのできる環境を整える。	①生徒一人ひとりが自身のキャリアを見据えできるとの連携、ソーシャルスキルの充実を図る。 ①コロナ禍におけるカリキュラム・マネジメントの交流の状況下でも可能な交流を模索する。 ②生徒が明確で高い目標を設定でできるとを支援する等し伸ばす指導に、模試活用を通して、自己肯定感や自己有能感を高める。	①アンケート調査等により、生徒のキャリアを見据えた進路意識が高まったか。 ①カジョリーナ・シニアカレッジ（姉妹校・オーストラリア）とのコロナ禍における具体的な交流を模索し、参加した生徒の主体的な取組を支援することができたか。 ②生徒一人ひとりが、自身の可能性を行動に移せる体制を構築できたか。	①新型コロナ感染対策を徹底した、看護体験などの職業体験、高大連携事業等の実施ができ、生徒が主体的に進路を選択する意識を高めることができた。 ①今年度も新型コロナの影響が収束するまで、訪問・受入れを中心とする姉妹校交流の実施は見送っている状況である。 ②Classi や学習アプリを活用することで、各学年とも模試や学習状況の振り返りが明確にできるようになった。	①総合的な探究の時間を活動を通して、生徒が主体的に探究することを目的とした学びの体験や、将来の進路を探究することを通じて、必要な資質・能力を支援していく。 ①グローバル社会で活躍する人材の育成のため、訪問・受入れ以外の可能な交流を模索する。 ②模試の振り返りを行うなど、学習状況を交流し、学習方法を検討する。 Classi、Compass などの学習状況管理アプリを活用できる体制を整えていく。	①生徒の進路選択に向けて、視野を広げるインターンシップ等の取組や活動について工夫して進めている。 ②オーストラリア姉妹校交流において英語部がオンラインでの交流を行ったことは、コロナ禍で途絶えていた交流の再開の第一歩となり、今後も行き来が再開できるよう期待したい。 ③模擬試験や Classi 等を効果的に活用し、学力伸張に取り組み、生徒の進学目標にもその成果が現れてきている。より一層進めてもらいたい。	①生徒の主体的な進路選択やキャリア形成の一助として、高大連携事業やインターンシップ等が実施でき、参加生徒の満足度も高かった。さらに、これらの事業のねらいや目的も明確にしながら、一層効果の上がるような事前・事後指導を工夫していく。 ②オーストラリア姉妹校交流は訪問・受け入れの再開を令和６年度に見据え準備に入る方向となった。校内組織体制を整備し、実りある姉妹校交流となるよう学校全体で進めていく。 ③模擬試験や Classi は職員全体で組織的に同じ方向を向いて活用出来ているという段階にない。校内での推進方法を工夫していく。	①総合的な探究の時間とも連動し、生徒が主体的に自身の将来のあり方、生き方についての考えが深まるよう担任を中心に支援していくことで、各種の進路事業がより一層実りのあるものとなると考える。 ②姉妹校交流の訪問・受け入れは令和元年度以来途絶えた影響もあり組織的な業務の引き継ぎがなされていないことから、今後の先方との連絡・調整や生徒への周知・案内や中学生への広報活動等を、学校全体で丁寧に進めていく。 ③Classi 活用のための職員研修や模試データの活用や振り返りについて、当該学年と所掌グループが連携して取り組んでいく。
4	地域等との協働	①地域との連携をよりも深めるとともに、地域と協働し、学校の人材育成や地域の活性化に積極的に取り組む。 ②地域の方々や保護者、在校生や卒業生など学校に関わる人々が応援したくなる、魅力ある学校情報の発信力の充実を図る。	①地域と協働して、新たに探究的・協働的な学びを開始し、学校の人材育成や地域の活性化に取り組む。 ②魅力ある学校の情報発信や、STEAM 教育研究推進校として新たな駆動的な取組にいざまま活動を積極的に発信していく。	①卒業生や地域企業と協働し、探究的な学びの実践に向けて様々な取組を行う。 ②学校ホームページ・秦高だより等における情報発信に加え、地域広報誌等と積極的に連携することで、より多くの方々に向けて秦野高校の魅力や新たな取組の内容及び方向性について積極的に発信していく。	①地域と連携して、総合的な探究の時間において協働的・探究的な学びを実践することができたか。 ②学校ホームページを毎月２回以上更新し、最新の情報を適時・的確に発信することができたか。 ②地域広報誌等と連携し、秦野高校の魅力を積極的に発信することができたか。	①卒業生や地域企業と協働し、探究的な学びを実践することができ、生徒の主体性・探究心の育成につなげることができた。地域清掃など、人と行事の接触が少ない行事を中心に地域との連携を深めることができた。 ②学校ホームページについては目標以上の頻度で更新を行うことができた。地域広報誌等と連携し、本校の魅力を発信することができた。	①地域との連携の在り方が難しい状況が継続しているが、コロナ禍においても継続的に協働できる方策を確立していく。 ②地域の方々や在校生、卒業生、そして本校を志望する中学生にとって必要な情報が中学生にとっての情報が要かかを精査し、ホームページの発信内容についてさらに工夫していく。	①with コロナの社会の中で、適度な距離感での地域連携活動や個人レベルでのボランティア活動等を進めており、地域社会の中で活躍する生徒もいることは評価できる。引き続き工夫をし、地域との連携活動は進めてもらいたい。 ②タウンニュース等と連携するなど、ホームページ以外の情報発信も含めて学校の様子を発信し、魅力をＰＲしてもらいたい。	①総合的な探究の時間の一環で地域の企業と連携した取組を行った。本校は、将来、地域社会を担っていく人材の育成を目指していることから積極的に地域社会に飛び出していくチャレンジを後押ししていく。 ②ホームページの発信は月１回以上の更新を行った。ホームページの内容の一層の充実を図った。また、夏休み中の中学生部活動見学(体験)を通じて本校の魅力が中学生にも伝わっている。	①引き続き、総合的な探究の時間での地域企業との連携、部活動を中心とした地域連携活動、ボランティア活動の後押し等、進めていく。 ②コロナ禍も落ち着きを見せ始めていることから、夏休み中の中学生部活動見学(体験)の回数を２回から３回に増やしたり、２学期(10 月)に中学生向け授業公開等を再開するなど、本校の魅力が中学生に伝わるような取組を工夫していく。タウンニュース社等への情報発信等も積極的に検討していく。
5	学校管理 学校運営	①生徒・教職員・安全・安心な教育環境の整備を進め、学習活動・部活動・学校行事等の活性化を図る。 ②不祥事防止の取組を進めるとともに、働き方改革の推進にも改善に向け、信頼に根ざした学校づくりを進める。	①日常的に安全・安心な教育環境の整備及び点検を進め、with コロナの教育活動のもとでの活性化を図っていく。 ②職員の主体的な不祥事防止組織的取組を推進し、信頼とを期待を学校づくりと進めるとともに、効率化を図る。	①新型コロナウイルス感染防止の基本的な取組を丸となって、施設・設備の危険箇所がないか、点検を心がけ、安全・安心な学びづくりを進める。 ②不祥事防止に係る研修を毎月１回以上実施し、「不祥事ゼロ」に向けて、職員一人一人が自己を振り返り、組織的に取り組む。	①感染症対策や安全・安心な教育環境の整備に向けて、学校の組織的な対応を共有できたか。 ②不祥事防止の研修を毎月１回以上実施し、職員一人一人が自己を振り返り、組織的に取り組む。	①本校としての感染防止対策の取組を継続して進めるとともに、施設・設備の危険箇所や破損箇所を点検する体制を構築した。特に夏季の熱中症対策に学校全体として機動的に対応した。 ②不祥事防止に係る研修を毎月１回以上実施し、職員の主体的な研修計画を精選・実施する回に内容を精選し、ながら啓発を図った。	①コロナ禍が長期化する中で、学校としての感染対策としては換気やマスク等効果的な対策に絞りメリハリをつけた対策をとってきた。夏季の猛暑への対策についてもエアコンの改良や機器の整備等を通じて改善を図り、安全・安心な教育環境の整備を進めた。 ②職員の意識を高め、引き続き信頼と期待に応える学校づくりを進めていく。不祥事防止はもとより、業務に忙殺されず生徒と向き合うためのの時間を確保するべく組織的な業務改善や効率化を図る議論を進め、校務や教育活動の工夫に反映させていく。	①校舎や設備の老朽化という課題の中でも生徒の安全・安心な教育環境の整備を工夫している。引き続き必要な改善や更新等を進めてもらいたい。コロナ対策も学校としてメリハリをつけて行っている。 ②働き方改革や業務改善、不祥事防止等に組織的な議論を重ねながら取り組んでいる。不祥事防止についても、生徒・地域・保護者等からの期待に応える意味でも未然防止を第一に進めてもらいたい。	①本校の感染対策のルールは生徒にも浸透し、一定の成果を上げた。猛暑の中、エアコンの不具合が発生したが迅速に対応し学習環境の維持に努めた。今後も施設・設備の必要な更新等のため、県費・私費を含めた優先度を踏まえた全体の調整を進めていく。 ②働き方改革の一環で職場環境の改善や行事の精選等について学校全体で議論することができた。実際に、欠席連絡の ICT 化等、出された意見を実現させた内容も多く、一定の成果を挙げた。校務の工夫や効率化により、生徒に向き合う時間をより確保するとともに、不祥事の未然防止にも直結していくものと考える。今後も職場全体での取組としていく。	①コロナの扱いが変更される見通しの中、継続していく感染対策もあり、引き続き学校全体で丁寧に確認しながら対策を進める。生徒の学びの根幹に安全・安心が最優先されることを念頭に置きながら、教育環境の整備を引き続き進めていく。 ②業務改善に関わる議論は、職員全体で継続的に進めていく。どの程度業務の改善につながったのか数値化できる指標を研究しながら、実効性の高い取組についてはスピード感を持って進めていく。